

中学校第1学年 国語科 学習指導案

期 日 平成25年10月3日(木) 第5校時
場 所 八代市立第一中学校 1年4組教室
指導者 教諭 増田 彩

1 単元名

「自由研究の図表の使い方を見直そう！」～図表の持つ役割や効果を考える～
(「シカの『落ち穂拾い』」ーフィールドノートの記録から) (光村図書「国語1」)

2 単元について

(1) 単元観

生徒が日々の生活で読む様々な種類の文章には、文学的文章だけでなく、説明や記録の文章も多く存在する。そして、その説明や記録の文章には図表が使われていることが多い。書き手の伝えたい内容をよりの確に読み取るためには、文章と図表の関係性や図表が果たしている役割と効果を理解することが重要である。

本単元は、シカの採食行動(「落ち穂拾い」)に興味を持った筆者が、実際の研究の過程を観察→仮説設定→検証→考察という構成で記録的に記述した文章である。「事実を述べた部分とそれに基づく筆者の考えを述べた部分」や「論の展開の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分」が読み分けやすい文章になっている。また、本文に加えいくつかの図表が提示されている。それらは、文章の意図を分かりやすく伝えているとともに、文章を支える根拠として説得力を増すはたらきをしている。その点で、文章の内容と図表との関連や図表の役割と効果についても考えやすい単元である。

本単元を通して行われる「文章と図表との関連を考えながら、説明や記録の文章を読む」言語活動は、他教科の学習や日常生活においても必要不可欠な能力として求められている。そうした意味からも、本単元は、実生活で生きてはたらき、各教科等の基本となる国語の能力を身に付けさせるのに適した教材であると言える。

(2) 系統観

第1学年	第2学年	第3学年
「大根は大きな根?」「ちょっと立ち止まって」(説明) C読むこと (1)ア, イ, エ (2)イ	「やさしい日本語」(説明) C読むこと (1)イ, ウ, エ (2)イ	「月の起源を探る」(説明) C読むこと (1)ア, イ, ウ (2)イ
「シカの『落ち穂拾い』」(記録) C読むこと (1)イ, エ (2)イ	「君は『最後の晩餐』を知っているか」(評論) C読むこと (1)イ, ウ, エ (2)イ	「論理の展開に着目して読もう」(論説) C読むこと (1)イ, ウ (2)イ
「流氷とわたしたちの暮らし」(説明) C読むこと (1)イ, オ (2)イ	「モアイは語る」(論説) C読むこと (1)イ, ウ, エ (2)イ	「ネット時代のコペルニクス」 C読むこと (1)イ, ウ, エ (2)イ

(3) 生徒観

○4月のNRT検査では、「読む能力」については全国平均を若干上回っている。ただ、「結論の段落の文をまとめること」や「同じ意味の表現を読むこと」などの正答率が低かった。

○本単元に関する意識調査の結果は、次のとおりである。(一部を抜粋)

質 問 項 目	とても+まあまあ
説明的な文章の授業はよく分かる。	56.3%
説明的な文章を読むとき、事実と筆者の意見を読み分けて、内容を理解している。	75.0%
図表が使われた文章を読むとき、図表から何が読み取れるかを考えながら読んでいる。	75.0%
説明的な文章を読んで、新たな考え方を発見し、自分の考えを広くしようとしている。	56.3%

しかしながら、「分からない言葉を辞書で調べる」「授業後に関連のある本を読む」などを実践している生徒は30%を下回っており、主体的な国語学習へ導く手だても必要である。また、レディネステストでは、「グラフに表された情報を正しく読み取ること」は70%近い正答率であったが、「読み取った情報を比較して的確にまとめること」は、5人しか完答できなかった。

○以上のことから、生徒は、図表が使われた文章を適切に読み取ろうとする意識が高く、その技能もある程度身につけていると考えられる。ただ、図表と文章の関連を意識してはいるものの、図表の持つ役割や効果まで考えながら読んでいる生徒は少ない。図表が果たしている役割や効果を、自分の身近な課題として主体的に理解しようとするための手だてが求められている。

(4) 指導観

- それらの実態を踏まえ、まず、単元を貫く言語活動を「文章と図表の関連を考えながら、理科の自由研究で使った図表の役割と効果を見直そう」と設定し、そのためには本単元でどんな力を身に付けばよいのかを考えさせる。導入時において学習活動全体を見通し、本単元の学習意義や身に付けたい力を明確にすることで、生徒がどこに向かって学びを進めていくのかを実感できるように工夫したい。
- 本単元には、読み手の興味や関心を引き付けるように工夫された図表が多く用いられている。そこで今回はまず、あえて図表を抜いた形の本文を読ませ、文章の説明だけでは理解しにくい部分を指摘させ、そこに必要な図表はどんなものか考えさせる。それにより、図表が持つ「文章の意図を分かりやすく伝える」「文章を支える根拠となり、説得力が増す」などの役割を理解させたい。また、「それぞれの図表は文章のどの部分と対応しているのか」を確認し、「図表から読み取れることは何か」を考えさせることにより、書き手の伝えたい内容を生徒自身に主体的に読み取らせたい。同時に、図表が果たしている効果について自分の考えを持たせることで、常に単元を貫く言語活動を意識した学習ができるように工夫したい。
- 第3次では、これまで身に付けた言語能力を生かし、自分の自由研究における図表の使い方を考察するとともに、他の生徒の作品についてもアドバイスをを行うことで豊かなかわり合いのある授業を目指す。生徒同士の学び合いにおいても、ただ感想を述べ合うのではなく、観点を定めて意見を交流させ、生徒の思考の過程が可視化できるようにしたい。

【視点1】 思考力・判断力・表現力等の育成	【視点2】 学習評価と指導の改善	【視点3】 情報活用能力の育成
【視点1】 生徒の思考力・判断力・表現力等を育成するために、単元を貫く言語活動を設定し、生徒同士の学び合いを基盤とした豊かなかわり合いのある授業づくりを目指す。	【視点2】 学習評価と指導の改善を図るために、身に付けた力を複合的に活用できる課題解決型の学習と思考力・表現力等の評価指標を工夫し、思考の過程を評価できる授業づくりを目指す。	【視点3】 情報活用能力を育成するために、必要な情報を集めるための方法を身に付けさせるとともに、目的に応じて必要な情報を読み取るための主体的な情報活用を促す授業づくりを目指す。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	記録の文章と図表の関係を整理しながら、図表が果たしている役割や効果について自分の考えをもつことができる。	
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
イ「文章と図表との関連を考えながら記録の文章を読む」言語活動を通した指導		
①文章と図表との関連をとらえながら、記録の文章を読むとしている。	①説明されている事実と図表との関係を整理し、文章の要旨をとらえている。(イ) ②記録の文章を展開する上で図表が果たしている役割をとらえ、その効果について自分の考えをもっている。(エ)	①意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。(イ(イ)) ②自分の考えをまとめる際に、より適切な語句を選んでいる。(イ(ウ))

4 指導・評価の計画（5時間取扱い 本時5／5）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【三つの視点から】	評価の観点（評価方法） B 基準
1	1	○単元を貫く言語活動を理解し、学習の見通しを持つ。 ○図表がない本文を読み、どんな図表が必要かを考える。	・自由研究の図表の役割や効果を見直すという目的で本単元を学習することを伝える。 【視点1】指導事項を明確化し、単元を貫く言語活動を理解させる。 ・文章の説明だけでは十分理解できない部分を見つけ、必要な図表をイメージさせる。	関心・意欲・態度①（学習シート） 文章と図表との関連をとらえながら、記録の文章を読もうとしている。 知識・理解・技能①（観察・ノート） 意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。
2	2・3	○文章の内容と図表との関係を整理し、全体の構成や文章の要旨をとらえる。	・小見出しをとらえ、おおまかに「事実」と「筆者の考え」に分けさせ、全体の構成をとらえさせる。 ・図表の使われ方に注意し、論理展開を追って文章の内容を主体的に読み取らせる。 【視点3】目的に応じた必要な情報を読み取らせることで、情報を取捨選択できる情報活用能力を身に付けさせる。	読む能力①（学習シート） 説明されている事実と図表との関係を整理し、文章の要旨をとらえている。
	4	○図表が果たしている役割や、図表が用いられていることの効果について、自分の考えをもつ。	・図表には「分かりやすさ」と「説得力」というねらいがあることに気付かせる。 ・筆者が明確な意思を持って、図表の機能を活用していることについて、自由研究を振り返り、自分の考えをもたせる。 【視点1】図表の役割や効果を考えさせることで、自分の考えを形成させる。	読む能力②（学習シート） 図表が果たしている役割をとらえ、その効果について自分の考えをもっている。 知識・理解・技能②（学習シート） 自分の考えをまとめる際に、より適切な語句を選んでいく。
3	5 (本時)	○自分の自由研究の図表の使い方を見直すとともに、他の生徒の作品にアドバイスし、意見を交流する。	・これまでの学習で学んだことを生かし、自分の自由研究の図表の使い方を振り返らせる。 ・生徒同士の主体的な学び合いとなるように場の設定や交流の仕方を工夫する。 ・ただ感想を述べるのではなく、評価の観点に基づいてアドバイスをさせる。 【視点1】互いの意見を豊かにかかわらせることで、自分の思考や表現を深化させる。 【視点2】観点を定めて交流させることで、思考の過程を可視化し指導と評価の改善を図る。	読む能力②（学習シート） 図表が果たしている役割をとらえ、その効果について自分の考えをもっている。

5 本時の学習

(1) 目標

自分の自由研究の図表の使い方を見直すことにより、図表の役割や効果について自分の考えをもつことができる。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 【三つの視点から】	備考
導入 5分	1 本時の課題を確認する。	○自由研究の図表について見直してみましょう。	○これまでの学習で学んだことを生かして取り組むことを意識させる。	自由研究のコピー
展開 40分 (10)	自由研究の図表の使い方を見直し、図表の役割や効果の観点から改善点を考えよう。			
	2 課題に取り組む。 (1) 自分なりの改善点を考える。	○まずは、自力で自分の図表の使い方を見直し、改善点を考えましょう。	○既習事項（図表の役割や効果）を活用しながら、自分の考えをまとめさせる。	学習シート
	(15) (2) 互いの考えを交流する。	○友達の図表の使い方について、観点に基づいたアドバイスをしよう。 〈観点〉 ・文章との対応は適切か。（文章の意図の反映） ・内容にあった形式か。（グラフや表の種類） ・提示の仕方は適切か。（タイトルや出典） ・情報や数値は正確か。（データの信頼性） ○よくできている点や自分が参考にしたい点も見つけてみましょう。	○生徒同士の主体的な学び合いとなるように協同学習の場の設定や付箋紙による交流の仕方を工夫する。 ○図表を用いることで、「情報や数値が比較しやすい」「数値の移り変わりや大小が見やすい」などの「分かりやすさ」が生まれることを理解させる。同時に、文章を支える根拠として「説得力」が増すことにも気付かせる。 【視点1】互いの意見を豊かにかかわらせることで、自分の思考や表現を深化させる。 【視点2】観点を定めて交流させることで、思考の過程を可視化する。	付箋紙
(15)	3 友達のアドバイスを基に、改善点をまとめる。	○アドバイスを参考にし、図表の改善点を学習シートにまとめてみましょう。 ○特に、図表の役割や効果という観点から見直してみましょう。	評価：読む能力②（学習シート） B基準 図表の役割や効果を考えながら、改善点をまとめている。 A基準 友達からの助言を取捨選択して、改善点をまとめている。 〈B基準に達していない生徒への手だて〉 「分かりやすさ」「説得力」という観点から自分の図表を見直させ、個別に助言を与える。	学習シート
整理 5分	4 学びを確認する。	○図表の改善点を発表してください。 ○この学びを今後に活用していきましょう。	○何人かの生徒にどのように改善するのかを発表させる。 ○今後図表を使って文章をまとめる際にこの学びを生かすよう伝える。	